

平成30（2018）年度イカナゴ瀬戸内海東部系群の資源評価

責任担当水研：瀬戸内海区水産研究所（高橋正知、河野悌昌）

参画機関：大阪府立環境農林水産総合研究所、兵庫県立農林水産技術総合センター水産技術センター、岡山県農林水産総合センター水産研究所、香川県水産試験場

要 約

本系群の資源状態を資源量指標値の推移により評価した。漁獲量は1980年に72,765トンで過去最高となった後は増減しつつも漸減傾向を示し、2009年に4,307トンと大きく減少し、2011年に25,131トンに増加した以降は減少傾向となり、2017年には過去最低の1,252トンとなった。資源水準の判断に用いた兵庫県の播磨灘および大阪湾の代表漁協0歳魚単位努力量当たり漁獲量（CPUE）の平均値は増減しつつ減少傾向で、2001年の3,544kg/統をピークに、2017年には過去最低の269kg/統となった。漁獲量と資源量指標値が使用できることから、ABC算定規則2-1)を適用した。2017年の資源水準は低位、資源動向は減少と判断された。2017年の漁獲量、資源量指標値はともに過去最低であることから、現状の資源状態を踏まえ、資源の確実な回復に向けたより効果的な資源管理に早急に着手すべきである。

管理基準	Target / Limit	2017年 ABC (トン)	漁獲割合 (%)	F 値 (現状の F 値からの増減%)
0.8・C2017・0.54	Target	430	—	—
	Limit	537	—	—

Limitは、管理基準の下で許容される最大レベルの漁獲量である。Targetは、資源変動の可能性やデータ誤差に起因する評価の不確実性を考慮し、管理基準の下でより安定的な資源の増大または維持が期待される漁獲量である。ABCtarget = α ABClimitとし、係数 α には標準値0.8を用いた。

